

3 なたね

(1) 国際的ななたね需給の概要

○2008/09年度のなたね需給（予測）のポイント

なたねの供給面では、EU等で小麦の作付面積の拡大との競合による作付面積の減少があるものの比較的良好な天候を背景に世界の生産量は増加が見込まれている。

需要面では、EU、カナダ等でバイオディーゼル需要の拡大に伴う搾油用需要の増加を中心に世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を上回ることから在庫が積み増しされ、期末在庫率も上昇するものの、依然として低水準であると見込まれている。

【生産量】

生産量は、EU、中国、カナダ等の主要生産国で増加することから、世界全体では前年度より4.8百万トン増加（10.2%）し、52.1百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.1百万トン上方修正されており、国別にはEUが下方修正され、ウクライナが上方修正された。

【消費量】

消費量は、原油価格の高騰によるバイオディーゼル需要の増加などから油糧種子全般での需要増大により、EU等で搾油需要を中心とした増加が見込まれ、世界全体では前年度より2.2百万トン増加（4.5%）し、51.1百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.3百万トン上方修正されており、国別にはEUが下方修正され、中国等が上方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より0.9百万トン増加（11.1%）し、9.2百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではオーストラリアが生産量の回復により輸出量を増加させるが、逆にカナダは輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、生産国でもあるEUが域内のなたね需要を満たすため、輸入量の増加が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.3百万トン上方修正されており、国別にはウクライナ等の輸出量、中国の輸入量が上方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を上回ることから、カナダ等で積み増しされ、世界全体では前年度より0.7百万トン増加（26.8%）し、3.2百万トンとなり、期末在庫率も6.3%まで上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、EUで下方修正したことによる。

表－1 世界のなたね需給

(単位:百万トン)

| 年 度 | 2006/07 | 2007/08 (見込み) | 2008/09 | | |
|--------------|-------------|------------------|-------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値 | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 45.2 | 47.3 | 52.1 | 0.1 | 10.2 |
| EU-27 | 16.1 | 18.3 | 18.8 | ▲ 0.3 | 2.3 |
| 中国 | 11.0 | 10.4 | 11.0 | - | 6.0 |
| カナダ | 9.0 | 8.8 | 9.8 | - | 12.0 |
| インド | 5.8 | 5.5 | 5.8 | - | 6.4 |
| ウクライナ | 0.6 | 1.1 | 2.8 | 0.4 | 154.5 |
| オーストラリア | 0.6 | 1.1 | 1.6 | - | 50.2 |
| ロシア | 0.5 | 0.6 | 0.7 | - | 10.8 |
| 消費量 | 46.6 | 48.9 | 51.1 | 0.3 | 4.5 |
| うち搾油用 | 43.9 | 46.4 | 48.6 | 0.4 | 4.7 |
| EU-27 | 16.6 | 19.0 | 19.8 | ▲ 0.3 | 4.2 |
| 中国 | 11.9 | 11.2 | 11.7 | 0.3 | 4.2 |
| インド | 6.4 | 5.9 | 5.9 | 0.1 | 1.4 |
| カナダ | 4.0 | 4.3 | 4.6 | - | 4.7 |
| 日本 | 2.2 | 2.2 | 2.3 | - | 2.8 |
| パキスタン | 1.1 | 1.1 | 1.3 | - | 17.0 |
| メキシコ | 1.1 | 1.2 | 1.3 | - | 4.2 |
| 貿易量 | 6.6 | 8.3 | 9.2 | 0.3 | 11.1 |
| (輸出) | | | | | |
| カナダ | 5.4 | 5.8 | 5.1 | - | ▲ 11.3 |
| ウクライナ | 0.5 | 0.9 | 2.3 | 0.3 | 143.2 |
| オーストラリア | 0.2 | 0.6 | 0.9 | - | 62.7 |
| 米国 | 0.2 | 0.4 | 0.4 | - | ▲ 19.5 |
| EU-27 | 0.1 | 0.4 | 0.3 | 0.1 | ▲ 20.5 |
| ロシア | 0.1 | 0.1 | 0.1 | - | 12.0 |
| カザフスタン | 0.0 | 0.1 | 0.1 | - | 34.0 |
| (輸入) | | | | | |
| 日本 | 2.2 | 2.3 | 2.3 | - | 2.2 |
| EU-27 | 0.4 | 0.7 | 1.6 | - | 134.8 |
| メキシコ | 1.1 | 1.2 | 1.3 | - | 4.2 |
| パキスタン | 0.8 | 0.9 | 1.1 | - | 16.7 |
| 米国 | 0.6 | 0.9 | 0.7 | - | ▲ 19.0 |
| 中国 | 1.0 | 0.9 | 0.7 | 0.3 | ▲ 17.6 |
| アラブ | 0.3 | 0.5 | 0.6 | - | 14.6 |
| 期末在庫量 | 4.5 | 2.5 | 3.2 | ▲ 0.4 | 26.8 |
| EU-27 | 1.5 | 1.0 | 1.2 | ▲ 0.4 | 15.3 |
| カナダ | 1.9 | 0.7 | 1.1 | - | 47.0 |
| オーストラリア | 0.3 | 0.2 | 0.4 | - | 58.6 |
| 日本 | 0.1 | 0.1 | 0.1 | - | ▲ 2.9 |
| ロシア | 0.1 | 0.1 | 0.1 | - | 32.9 |
| 米国 | 0.1 | 0.2 | 0.1 | 0.0 | ▲ 49.0 |
| インド | 0.5 | 0.1 | 0.1 | - | ▲ 50.0 |
| 期末在庫率 | 9.7% | 5.2% | 6.3% | ▲ 0.7 | 1.1 |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

(2) なたねの主要生産・輸出国等の需給状況

ア カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、バイオディーゼル需要を背景としたなたね価格の高騰による作付け拡大や、単収の回復基調により、前年度より1.0百万トン増加（12.0%）し、9.8百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.3百万トン増加（4.7%）し、4.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、EU、中国等の他の主要生産国での生産量の増加に伴い前年度より0.7百万トン減少（▲11.3%）し、5.1百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.4百万トン増加（47.0%）し1.1百万トンとなり、期末在庫率も11.3%（4.0ポイント増）と増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

カナダのなたねは、現在、登熟期から成熟期の段階であり、一時天候不順が懸念されたものの、概ね順調に生育しているとみられる。なお、昨年8月に入ってからの夏の高温乾燥天候により悪影響が出たことから、引き続き天候に注視が必要である。

イ オーストラリア

【需給状況】

オーストラリアの生産量は、小麦と同様に2年連続の干ばつの影響で低下していたが、0.5百万トン増加（50.2%）し、1.6百万トンとなり平年並みに回復する見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（5.6%）し、0.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加に伴い前年度より0.3百万トン増加（62.7%）し、0.9百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.2百万トン増加（58.6%）し、0.4百万トンとなり期末在庫率も26.0%（3.9ポイント増）と増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

オーストラリアのなたねの作付けは、一部地域で乾燥による作付けの遅れや縮小も見られたものの、作付けはほぼ順調に推移し、現在、生育期を迎えている。全般的に乾燥傾向による土壌水分不足が懸念される中で7月下旬に降雨があり、なたねの生育の改善に繋がったと見られているが、西オーストラリア州南部の生産地帯などでは乾燥傾向が続いていることから、引き続き天候に関する注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 1位（2007年数量ベース92.9%）
世界の生産量シェア 3位（2008/09年度18.8%）
輸出量シェア 1位（2008/09年度55.6%）

表-2 カナダのなたね需給（市場年度：8月～翌年7月）

（単位：百万トン）

| 年 度 | 2006/07 | 2007/08 (見込み) | 2008/09 | | |
|-------|---------|------------------|-------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値(AAFC) | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 9.0 | 8.8 | 9.8 (10.6) | - | 12.0 |
| 消費量 | 4.0 | 4.3 | 4.6 (4.5) | - | 4.7 |
| うち搾油用 | 3.6 | 4.0 | 4.2 … | - | 4.4 |
| 輸出量 | 5.4 | 5.8 | 5.1 (5.7) | - | ▲ 11.3 |
| 輸入量 | 0.2 | 0.2 | 0.2 (0.2) | - | 0.0 |
| 期末在庫量 | 1.9 | 0.7 | 1.1 (1.6) | - | 47.0 |
| 期末在庫率 | 20.1% | 7.4% | 11.3% 15.2% | - | 4.0 |

(参考)

| | | | | | |
|------------|------|------|-------------|---|-----|
| 収穫面積(百万ha) | 5.24 | 5.91 | 6.30 (6.30) | - | 6.6 |
| 単収(t/ha) | 1.72 | 1.48 | 1.56 (1.68) | - | 5.4 |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
AAFC 「Grains and Oilseeds (August 1, 2008)」

我が国の輸入先国シェア 2位（2007年数量ベース 7.0%）
世界の生産量シェア 6位（2008/09年度 3.1%）
輸出量シェア 3位（2008/09年度 9.8%）

表-3 オーストラリアのなたね需給（市場年度：12月～翌年11月）

（単位：百万トン）

| 年 度 | 2006/07 | 2007/08 (見込み) | 2008/09 | | |
|-------|---------|------------------|-------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値(ABARE) | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 0.6 | 1.1 | 1.6 (1.7) | - | 50.2 |
| 消費量 | 0.5 | 0.5 | 0.6 (0.6) | - | 5.6 |
| うち搾油用 | 0.5 | 0.5 | 0.5 … | - | 5.9 |
| 輸出量 | 0.2 | 0.6 | 0.9 (1.0) | - | 62.7 |
| 輸入量 | 0.1 | 0.0 | 0.0 (0.0) | - | 0.0 |
| 期末在庫量 | 0.3 | 0.2 | 0.4 (0.0) | - | 58.6 |
| 期末在庫率 | 36.7% | 22.0% | 26.0% (0.0) | - | 3.9 |

(参考)

| | | | | | |
|------------|------|------|-------------|---|------|
| 収穫面積(百万ha) | 1.05 | 1.06 | 1.20 (1.24) | - | 13.2 |
| 単収(t/ha) | 0.54 | 1.00 | 1.33 (1.35) | - | 33.0 |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
ABARE 「Australian crop report (June 2008)」

ウ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、EU共通農業政策(CAP)における小麦の生産調整面積が適用されないことによる小麦の作付拡大により、小麦の転作作物であり作付が競合する菜種の収穫面積が減少するものの、温暖な冬の天候などにより単収が増加することから前年度より0.5百万トン増加(2.3%)し、18.8百万トンとなる見込みである。

消費量は、原油価格の高騰によるバイオディーゼル需要の増加などから搾油需要が増加し前年度より0.8百万トン増加(4.2%)し、19.8百万トンとなる見込みである。

EU域内需要の増加に伴い、輸出量は前年度より0.1百万トン減少(▲20.5%)し、0.3百万トンとなり、輸入量は前年度より0.9百万トン増加(134.8%)し、1.6百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.2百万トン増加(15.3%)し、1.2百万トンとなり期末在庫率も5.9%(0.6ポイント増)と増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、生産量及び消費量が0.3百万トン下方修正され、輸出量が0.1百万トン上方修正された。加えて、2007/08年度の消費量及び輸出量の上方修正による2008/09年度の期首在庫の下方修正から期末在庫量が0.4百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

EUでは全般的には、比較的生育に適した天候であり、生育は順調に進捗している。

エ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、価格の高騰などにより作付意欲が高まり、前年度より0.6百万トン増加(6.0%)し、11.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.5百万トン増加(4.2%)し、11.7百万トンとなる見込みである。

輸入量は、生産量が回復することなどから0.2百万トン減少(▲17.6%)し、0.7百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、搾油用の消費量が0.3百万トン上方修正され、輸入量が0.3百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

なたねは昨年10月に作付けされたが、今年初めの大寒波により主要生産地で被害を受けた。開花期や成熟期の間、天候に恵まれたことから単収は回復している。なお、収穫は5月頃に終了している。

| | |
|-----------|---------------------|
| 世界の生産量シェア | 1位 (2008/09年度36.0%) |
| 輸出量シェア | 5位 (2008/09年度 3.4%) |

表-4 EU-27のなたね需給(市場年度:7月~翌年6月)

| 年度 | 2006/07 | 2007/08 (見込み) | 2008/09 | | |
|------------|---------|------------------|-------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値(Oil.W) | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 16.1 | 18.3 | 18.8 (18.1) | ▲ 0.3 | 2.3 |
| 消費量 | 16.6 | 19.0 | 19.8 | ▲ 0.3 | 4.2 |
| うち搾油用 | 15.7 | 18.2 | 19.1 | ▲ 0.1 | 4.7 |
| 輸出量 | 0.1 | 0.4 | 0.3 | 0.1 | ▲ 20.5 |
| 輸入量 | 0.4 | 0.7 | 1.6 | - | 134.8 |
| 期末在庫量 | 1.5 | 1.0 | 1.2 (0.8) | ▲ 0.4 | 15.3 |
| 期末在庫率 | 8.8% | 5.3% | 5.9% | ▲ 2.0 | 0.6 |
| (参考) | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 5.41 | 6.56 | 6.40 (6.19) | 0.02 | ▲ 2.4 |
| 単収(t/ha) | 2.97 | 2.79 | 2.93 (2.92) | ▲ 0.05 | 4.9 |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (July 2008)」

| | |
|-----------|---------------------|
| 世界の生産量シェア | 2位 (2008/09年度21.1%) |
| 輸入量シェア | 6位 (2008/09年度 7.6%) |

表-5 中国のなたね需給(市場年度:10月~翌年9月)

| 年度 | 2006/07 | 2007/08 (見込み) | 2008/09 | | |
|------------|---------|------------------|-------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値(Oil.W) | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 11.0 | 10.4 | 11.0 (11.5) | - | 6.0 |
| 消費量 | 11.9 | 11.2 | 11.7 | 0.3 | 4.2 |
| うち搾油用 | 11.5 | 10.8 | 11.2 | 0.3 | 4.2 |
| 輸出量 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | - | 0.0 |
| 輸入量 | 1.0 | 0.9 | 0.7 | 0.3 | ▲ 17.6 |
| 期末在庫量 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | - | 0.0 |
| 期末在庫率 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | - | 0.0 |
| (参考) | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 6.00 | 5.70 | 6.00 (6.82) | - | 5.3 |
| 単収(t/ha) | 1.83 | 1.82 | 1.83 (1.69) | - | 0.5 |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds:World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (July 2008)」

オ インド

【需給状況】

インドの生産量は、単収が低下するものの収穫面積が回復する見込みであることから、前年度より0.3百万トン増加（6.4%）し、5.8百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度と同水準の5.9百万トンとなる見込みである。

輸出货量、輸入力とも貿易の実績はほとんどない。

この結果、期末在庫量は、前年と同水準の0.1百万トンとなり、期末在庫率は0.8%（0.9ポイント減）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、消費量が0.1百万トン上方され、期末在庫量がわずかに下方修正された。

（世界の生産量シェア 4位（2008/09年度 11.1%））

表－6 インドのなたね需給（市場年度：10月～翌年9月）

| 年 度 | 2006/07 | 2007/08 (見込み) | 2008/09 | | |
|------------|---------|------------------|-------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値(Oil.W) | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 5.8 | 5.5 | 5.8 (6.4) | - | 6.4 |
| 消費量 | 6.4 | 5.9 | 5.9 ... | 0.1 | 1.4 |
| うち搾油用 | 5.7 | 5.2 | 5.3 ... | 0.1 | 1.1 |
| 輸 出 量 | 0.0 | 0.0 | 0.0 ... | - | 0.0 |
| 輸 入 量 | 0.0 | 0.0 | 0.0 ... | - | 0.0 |
| 期末在庫量 | 0.5 | 0.1 | 0.1 ... | - | ▲ 50.0 |
| 期末在庫率 | 7.7% | 1.7% | 0.8% ... | ▲ 0.0 | ▲ 0.9 |
| (参考) | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 6.64 | 5.70 | 6.20 (6.40) | - | 8.8 |
| 単収(t/ha) | 0.87 | 0.96 | 0.94 (0.99) | - | ▲ 2.1 |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly (July 2008)」